

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年8月)

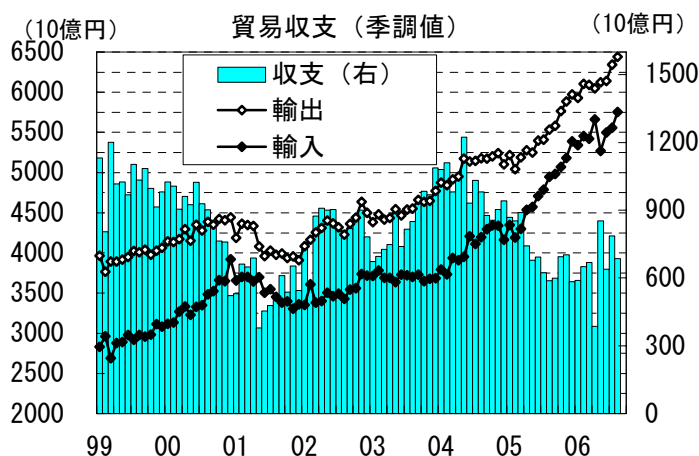
発表日2006年9月21日(木)

～輸出は堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年8月	587	5534	4947	103
9月	599	5582	4982	949
10月	694	5764	5069	818
11月	703	5884	5181	594
12月	583	5974	5390	908
06年1月	589	5931	5342	-354
2月	650	6105	5455	947
3月	668	6091	5423	968
4月	386	6048	5662	650
5月	854	6124	5271	381
6月	639	6139	5499	805
7月	786	6343	5557	859
8月	686	6439	5753	200

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年8月	9.1	6.7	2.2	3.1	▲ 2.1	1.3	21.5	11.4	9.1	9.2	6.6	12.5
9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲ 3.3	▲ 2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲ 7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲ 0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲ 15.2	▲ 2.1	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	8.1	15.2	18.0	13.1	4.4	5.4	2.8	9.1
6月	14.5	5.3	8.7	2.5	9.3	8.0	18.3	13.4	4.2	▲ 0.2	▲ 3.8	9.5
7月	14.2	7.8	5.9	8.9	1.1	6.5	16.8	12.3	4.0	▲ 6.2	2.2	10.9
8月	17.7	5.3	11.8	14.2	6.9	10.7	16.1	13.7	2.1	6.2	2.7	4.2

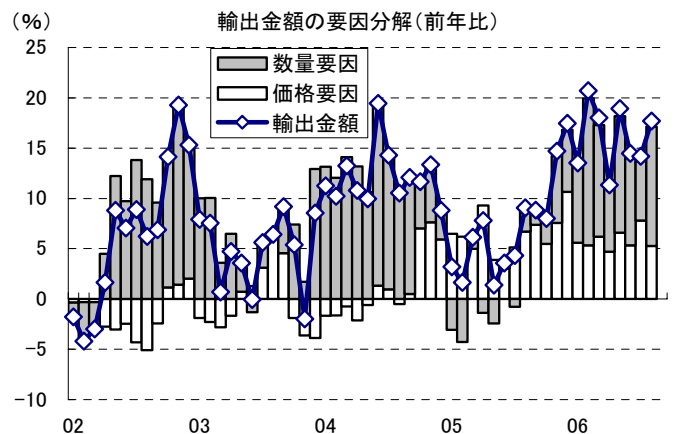
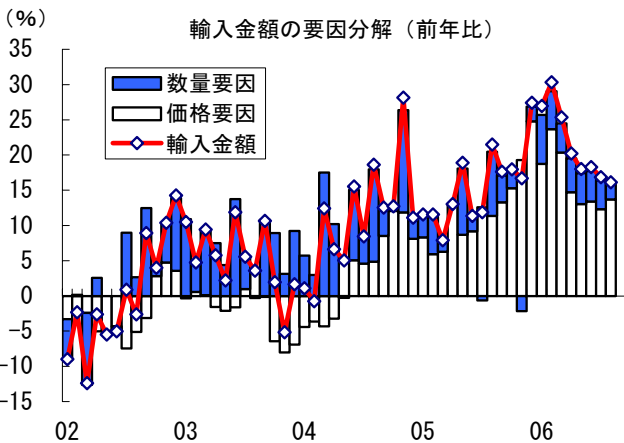
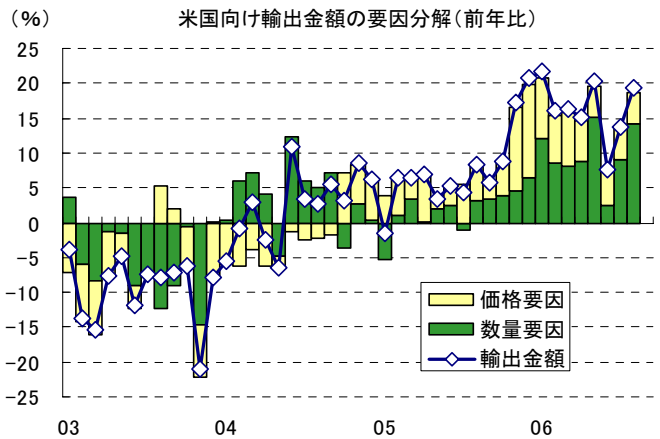
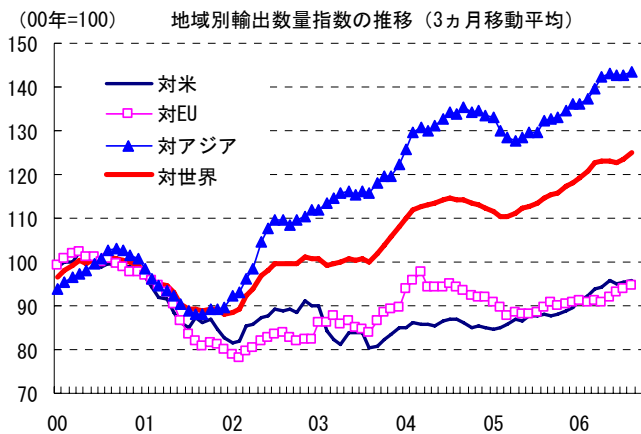
○ 8月の貿易黒字額は前年比+95.5%と3ヵ月ぶりに増加

8月の貿易収支は2,005億円(原数値)、前年比+95.5%となった。輸入金額は原油や非鉄金属等が増加したことから前年比+16.1%(前月同+16.8%)と前月並みの伸びとなった一方、輸出金額は前年比+17.7%(前月同+14.2%)と伸びが拡大した。貿易黒字額は輸出の伸びが拡大したことから3ヵ月ぶりに増加した。

○ 輸出数量は二桁増と堅調

輸出を数量ベースで見ると、前年比+11.8%(前月同+5.9%)と二桁の増加となった。地域別にみると、米国向け(同+14.2%←前月同+8.9%)、アジア向け(同+10.7%←前月同+6.5%)、欧州向け(同+6.9%←前月同+1.1%)と主要地域すべてで伸びが拡大した。米国向け輸出は、主力の自動車向け輸出が好調だったことが輸出の増加につながった。日本車は燃費や安全面等の性能において競争力が高いため、

同分野の輸出は先行きも堅調な推移が見込まれる。アジア向けについては引き続きの素材関連品目が堅調だった。振れの大きい船舶輸出が減少したものの、非鉄金属や鉄鋼などの輸出が増加に寄与した。また、EU向けについても為替が対ユーロで円安となっていることもあって底堅く推移している。W杯終了に伴う需要の鈍化から薄型テレビなどの映像機器が減少したが、原動機、船舶、自動車等の品目が増加に寄与した。ここ数ヵ月をみると輸出数量の伸びはやや鈍化してきていたため、輸出の減速テンポが強まるのかが懸念されていたが、8月の輸出は堅調だったといえよう。



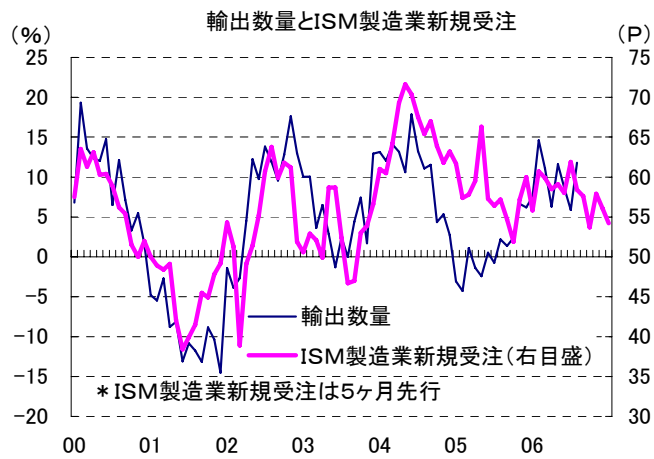
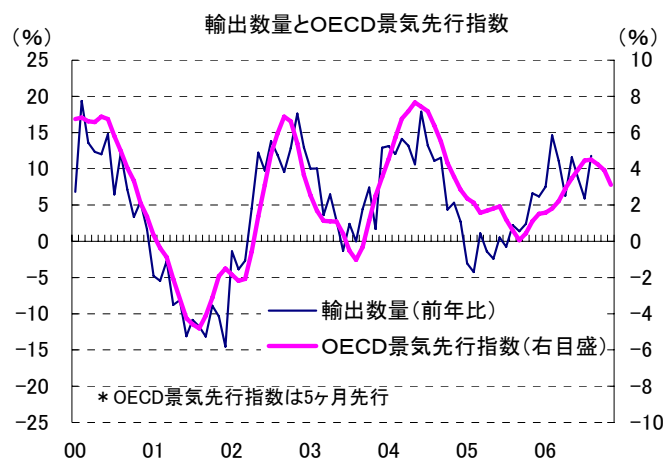
○ 先行指標から判断すれば、輸出は先行き減速してくる公算が大きい

米国景気の減速が鮮明になってきていることや輸出の先行指標であるOECD景気先行指数や米国のISM製造業新規受注がピークアウトしていること等を踏まえると、先行き輸出の増加ペースの鈍化は避けられない見込みだ。ただし、米国景気は潜在成長率を小幅下回る成長にソフトランディングすると考えられることや、中国における金融引き締め策も景気を失速させるには至らないと考える。輸出は増加テンポが鈍化するものの先行きも底堅く推移する見込みだ。一方、輸入に関しては緩やかながらも拡大傾向が続く可能性が高い。雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の回復や成長期待の改善を背景とした設備投資の増加などの国内需要の回復により、輸入も増加傾向を辿ると判断する。

先行きの貿易収支については、原油価格および海外経済の減速ペース動向が重要となる。輸入については原油価格の上昇による価格面からの押し上げ寄与が大きいですが、その原油価格は8月上旬に過去最高値をつけた後は低下傾向を辿っている。原油価格の動向については不透明な部分も大きいですが、今後は前年対比でみた輸入金額への押し上げ寄与は徐々に剥落していく公算が大きくなったと考えられる。米国景気の減速に伴って輸出金額の増加テンポも鈍化してくるとみられるため、目先の貿易収支は一進一退となることを想定して

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

いるが、原油価格次第では貿易収支が早晩増加傾向に転じる可能性もあろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。